

## 聖書を「歳」で読んでみる

聖書の読み方はいろいろあります。ひとりで通読する。教会学校（分級）、祈祷会、木曜祈り会、などで複数で読む、礼拝で説教を聞くというようにいろいろです。複数で読むときに、「はつ！」とさせられるのは、自分ひとりでは考えもしなかったことを教えられることです。そこからもう一步深く考えることによって、聖書をよむ味が豊かになります。

創世記を読んでいますが、最近感ずるのは、聖書を「歳」で読んでいるということです。

年齢を重ねると、若い頃は心にも留めなかったところの記事が深くしみ込んできます。

人生の歩みで出来事に出会うことによって聖書に共感を生みます。聖書には良い事ばかりが書かれているわけではありません。驚くようなことが書かれているのです。

われわれの人生で今事実起こっていることなのです。では聖書は「その出来事をどのように解決したらよいか」を与えてくれますか？ 聖書は「棚ぼた」の解答を与えません。

聖書はわれわれを先ず「祈り」へと導き、次に決断へと導きます。

山下誠也